大きく伸びた農業

生産前年対比6％増

（昭和41年農業生産指数計算結果）

概　　要

1. 全　　国

昭和41年の農業は、北海道、東北北部の異常低温や北陸の一部に集中豪雨などがあつたが、全国的には大きな影響もなく、耕種農業を中心として畜産物なども大きく伸びた一年間であつた。その伸び、すなわち生産指数は農業総合で（昭和40年＝100）に対し103.8となつた。この伸びは過去5か年間の平均伸び率2.1％を上回るものである。

このように昭和41年の農業が順調な伸びをみせたのは、畜産物が前年にひきつづき約6％の伸びとなつたり、この幾年間か低迷をつづけていた耕種部門の生産が、米の増加、野菜、果実などの大幅な増加に支えられて、前年より3.2％伸び、過去5か年間において大きな伸びとなつたからである。

2. 関東東山農業地域

農業生産は順調で、農業総合は107.4となり、前年より7.4％も伸びた。これは耕種部門では野菜、果実、工芸作物などが大幅に伸びたのと、畜産も豚の140.9を最高に、食鶏、鶏卵生乳などが寄与し、畜産総合で113.7となつたためである。

なお、関東東山における過去の農業生産の動きについてみると、昭和35年91.2であつたが昭和41年107.4となり、平均伸び率2.7％を示している。

3. 茨　　城

農業総合でみると、前年に比べ5.9％伸び、指数は105.9となつた。部門別内訳は、耕種102.1、養蚕99.6、畜産が121.4である。前年に比べ、耕種2％増、養蚕はやや減退、畜産は21％と極めて大きな伸びであつた。過去5か年間の平均伸び率が農業総合で3.7％、畜産17.6％共に増、耕種は変化なし、養蚕0.8％減であるから、総体的にみて生産はかなり高いものといえよう。とくに野菜、豚（共に2.5倍）、果実（1.5倍）などの伸びの高さは特徴的である。

(1) 耕　　種

1）米　耕種全体の約50％のウエートをしめる米の生産をみると、水稲は作付やや増加し、好天候に恵まれ作柄は良かつたが、登熟期は近年まれにみるウンカの被害もあつて前年並に止まつた。陸稲は減反、干害により6％程減産し、その結果指数は99.5となつた。

2）麦類　減反いちぢるしく（前年比小麦10％、6条大麦11％共に減。2条大麦7％増）雹害などの減産要因がある反面、登熟期の好天候が単位当り収量を増大せしめた。その結果、前年並の生産に止まつた。

3）いも　生産県である本県の減反は大きく、転用、転換もあり、前年より10％近く減反した。初期生育は低温のため不良であつたが、肥大期は天候に恵まれ、加工用いもの生産はのび、その結果前年並となつた。ばれいしよは5％ほどのびて、いも全体の指数は101.4となつた。

4）野菜　耕種全体にしめる割合は20％にみたないが、前年に対する伸び（9.5％）は、果実（16.4％）についで高い。食糧消費構造の変化にともなつて、根菜類から果菜類、葉茎菜類へと重点を移しながら、伸び率平均4％で順調に推移して来た。昭和41年は、作付の増加、春夏ものが好天候に恵まれて生産が伸びたため、生産水準はかつてない高さをみせている。

いちご、きゃべつ、ピーマン、ほうれんそう、とまと、れんこんなどは20％以

上も生産が伸びている反面、きゆうり、ねぎなどは5～10％ほど減産した。

5）果実　昭和35～41年間の前半において栽培面積の伸びが顕著（平均伸び率15％）であつたが、後半はやや鈍化（同11％）の傾向にある。なし、くり、ぶどう、ももなどの主要果樹成園面積を昭和35年当時と比べると、軒なみに2倍以上で計5,000ヘクタール。未成園面積は3倍強2,200ヘクタールに達した。果実生産の75％しめるくり、なしをはじめかき、ももの作柄も良く、全体として前年より16％も伸び、指数は116.4となつた。

6）工芸作物　こんにやく、いも、茶の増収にもかかわらず、工芸作物の約90％をしめるたばこは約4％も大きく減産したため、全体として3％ほど減少し、指数は96.9となつた。

(2) 養　　蚕

蚕の生産は労働力の不足、桑園の転換、あるいわ天候不良による桑不足もあつて、近年減少傾向にあり、昭和41年はほぼ前年並に推移した。

1）春蚕　掃立て卵量は前年に比べやや減。蚕作は順調であつたが桑不足もあり収繭量は3％減産した。

2）夏秋蚕　掃立て卵量は前年並。収繭量は前期が約3％減産したが、後期は約4％増加したため、全体として約2％増加した。

(3) 畜　　産

昭和36年以降急速に伸びて、昭和41年の指数は121.4となり、前年より21％も伸びた。過去5か年間の平均伸び率が18％であるから高い生産水準といえる。これは、鶏卵の減退、生乳の伸びの鈍化の中に、畜産全体の55％をしめる豚が前年に比べ、41％も大幅に伸びたためである。

1）豚　近年肉用牛の不足が反映していること、従来より飼養基盤があるうえ、市場における有利性などから、大規模飼養農家は前年より大幅（40％）にふえたことは特徴的である。こうして、昭和35年以降最高の伸びとなつた。

2）鶏卵　卵価安による飼養羽数の減退からの回復おくれや、ニューカツスル病の被害もあつて、生産は前年に比べ9％も減少した。採卵鶏農家率は前年より8％ほど減少しているが羽数規模は順調に拡大化している。

3）生乳　昭和38年頃より伸びは鈍化の傾向にあり、41年は11％に止まつた。これは過去5か年間の平均伸び率22％を大幅に下回るものである。

乳牛普及率や頭数規模は上伸しているが、肉用牛の不足を反映して、と殺頭数の増加などにともなう搾乳牛頭数の伸びの鈍化傾向や、零細飼育農家の脱落などがあつて、伸びなやんでいるものとみられる。

4）その他　役肉用牛の減少はつづいており、昭和41年指数は77.9となつた。肉用牛需要の増大化が予想されている中で問題であろう。食鶏は豚と同じように大幅に伸びて、指数は135となつた。

（農林省茨城統計調査事務所）

昭和40年基準茨城県農業生産指数

項目	年次 ＼ 部門		農業総合	耕				
				耕種総合	米	麦類	豆類	いも類
茨城	ウエート		10,000	7,711	3,749	1,001	316	410
	指数	昭和35年	83.5	98.1	98.2	110.7	99.7	138.3
		36	89.0	99.7	98.2	113.1	119.0	142.6
		37	94.6	103.1	103.9	110.2	120.5	135.1
		38	95.2	102.6	101.6	94.1	104.4	147.6
		39	97.5	99.8	99.1	95.6	84.6	124.2
		40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		41	105.9	102.1	99.5	100.4	101.4	101.4
	対前年増減率(%)	昭和35年	—	—	—	—	—	—
		36	6.6	1.6	0.0	2.2	19.4	3.1
		37	6.3	3.4	5.8	△ 2.6	1.3	△ 5.3
		38	0.6	△ 0.5	△ 2.2	△14.6	△13.4	9.3
		39	2.4	△ 2.7	△ 2.5	1.6	△19.0	△15.9
		40	2.6	0.2	0.9	4.6	18.2	△19.5
		41	5.9	2.1	△ 0.5	0.4	1.4	1.4
関東東山農業地域	ウエート		10,000	7,068	3,334	666	246	296
	指数	昭和35年	91.2	107.9	110.9	150.2	114.5	133.7
		36	96.4	107.9	108.1	158.0	118.1	138.8
		87	99.4	109.5	111.3	139.9	114.1	131.3
		38	99.2	106.4	107.8	101.2	112.7	137.0
		39	102.4	106.5	105.0	119.5	100.6	131.3
		40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		41	107.4	106.1	101.8	104.8	100.8	102.9
	対前年増減率(%)	昭和35年	—	—	—	—	—	—
		36	5.7	0.0	△ 2.5	5.2	3.1	3.8
		37	3.1	1.5	3.0	△11.5	△ 3.4	△ 5.4
		38	△ 0.2	△ 2.8	△ 3.1	△27.7	△ 1.2	4.3
		39	3.2	0.1	△ 2.6	18.1	△10.7	△ 4.2
		40	△ 2.3	△ 6.1	△ 4.8	△16.3	△ 0.6	△23.8
		41	7.4	6.1	1.8	4.8	0.8	2.9

（つづき）

項目	年次 ＼ 部門		種			養蚕	畜産			
			野菜	果実	工芸作物		畜産総合	豚	鶏卵	生乳
茨城	ウエート		1,345	197	693	168	2,121	1,173	512	219
	指数	昭和35年	82.4	63.1	86.6	105.6	45.3	43.6	45.1	36.5
		36	79.2	73.5	88.1	106.9	60.9	58.1	72.7	44.4
		37	86.1	72.1	93.2	106.0	72.4	73.0	75.2	56.1
		38	97.2	100.1	106.4	110.1	75.7	78.3	72.8	72.3
		39	94.6	96.4	115.8	116.0	90.3	90.6	86.9	85.2
		40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		41	109.5	116.4	96.9	99.6	121.4	140.6	91.0	111.0
	対前年増減率(%)	昭和35年	—	—	—	—	—	—	—	—
		36	△ 3.9	16.5	1.7	1.2	34.4	33.3	61.2	21.6
		37	8.7	△ 1.9	5.8	△ 0.8	18.9	25.6	3.4	26.4
		38	12.9	38.8	14.2	3.9	4.6	7.3	△ 3.2	28.9
		39	△ 2.7	△ 3.7	8.8	5.4	19.3	15.7	19.4	17.8
		40	5.7	3.7	△13.6	△13.8	10.7	10.4	15.1	17.4
		41	9.5	16.4	△ 3.1	△ 0.4	21.4	40.6	△ 9.0	11.0
関東東山業農地域	ウエート		1,610	524	358	670	2,262	694	654	508
	指数	昭和35年	79.1	83.5	93.3	102.4	52.8	42.4	51.9	58.3
		36	77.6	88.0	95.3	108.4	68.6	58.9	73.5	66.8
		37	87.9	93.7	98.7	100.9	77.4	69.8	79.9	77.3
		38	98.5	102.9	102.1	105.4	82.4	71.8	82.8	88.3
		39	94.5	109.7	112.0	107.7	92.4	79.5	97.1	94.5
		40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		41	111.4	120.8	110.5	99.8	113.7	140.9	103.5	106.4
	対前年増減率(%)	昭和35年	—	—	—	—	—	—	—	—
		36	△ 1.9	5.4	2.1	5.9	30.5	38.9	41.6	14.6
		37	13.3	6.5	3.6	△ 6.9	12.3	18.5	8.7	15.7
		38	12.1	9.8	3.4	4.5	6.5	2.9	3.6	14.2
		39	△ 4.1	6.6	9.7	2.2	12.1	10.7	17.3	7.0
		40	5.8	△ 8.8	△10.7	△ 7.1	8.2	25.8	3.0	5.8
		41	11.4	20.8	10.5	△ 0.2	13.7	40.9	3.5	6.4

注　茨城県と比較するうえ、作成方法が同じである関東東山農業地域の指数から対応できる部門を参考まで示した。